

孤立した避難所多数

災害派遣医療チーム



被災地で救援活動に当たったDMATチームら
(総合南東北病院提供)

県内からも災害派遣医療チーム(DMAT)が能登半島地震の被災地に入った。このうち石川県輪島市で救

援活動した総合南東北病院(郡山市)の藁谷暢医師(45)は10日、福島民友新聞

社取材に「孤立した避難所が多く、いかに医療を提
供できるかが課題だ」と被災地の現状を語った。
同病院のDMATチームは6〜9日に輪島市保健医療福祉調整本部などで、避難所や孤立地域の管理などに当たった。藁谷医師によると、同市は道路が寸断されて孤立地域があるため「医療を必要とする人にくぐ対応できない」状況。医師らは孤立した地域や避難所での治療のためへりで向かっており、悪天候時には自衛隊員らが薬や衛生電話を歩いて運んだ上で、電話診療しているという。
避難所内では感染症が流行している。藁谷医師は東日本大震災の経験を生かし衛生指導に当たったが「水が手に入りにくく、対策にも限界があった」とし、避難所に医師を常駐させる必要性を指摘。「(県内の医療従事者に)現状を伝え、被災地に必要な人材を派遣できる仕組みを整備してほしい」と訴える。